

# 知識は 旅をする



館内のご案内（４）ブラウジングコーナー  
※読書をしながら音楽が楽しめます

千葉県立東部図書館だより  
2014年3月

## 第49号

### ■トピックス

#### ▼展示コーナー

「芥川賞・直木賞の作品Part3  
1989～2013」  
現在展示中 ～4月17日(木)  
芥川賞・直木賞は今回で150回を迎え  
ました。Part3は平成の受賞作品です。

#### ▼資料紹介コーナー

「東日本大震災の記憶と記録、防災と  
まちづくり」  
現在展示中 ～3月19日(水)  
次回の予定 「理系の世界」  
3月20日(木)～4月17日(木)

#### ▼図書館向けデジタル化資料送信サービスについて

平成26年1月21日(火)から、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、入手困難な図書、雑誌、博士論文を図書館等へ送信する「図書館向けデジタル化資料送信サービス」が利用できるようになりました。

調査・相談カウンター近くのパソコン4台で利用することができます。利用の際は、カウンターへ「資料貸出券」を提示してお申し込みください。

また、著作権法の認める範囲内で複製が可能ですので、ご希望の方は「資料複製申込書」に必要事項を記載してお申し込みください。

ホームページURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話サイトURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>

携帯電話機のQRコードリーダーでアクセスできます→



## 水郷を旅した人々 ー文人・文豪の水郷遊歴と利根川水運ー

平成25年11月30日（土）13:30～15:30 場所：3階 研修室

今回の歴史講座は「水郷を旅した人々 文人・文豪の水郷遊歴と利根川水運」という演題で、千葉県立中央博物館の主席研究員で歴史学研究科長の内田龍哉先生をお招きし、53名の方が聴講されました。

この講座の開催にあたり、講演の一か月半ほど前より、県立中央博物館と連携して様々な取り組みをしてきました。水郷地域の写真のパネル展示や、文人・文豪の足跡に関するスライドショーの上映、小林一茶の旅日記のレプリカ資料展示や県立図書館所蔵の講座関連資料の展示をしました。

内田先生は、主に近世利根川下流域における江戸文人の遊歴と水運の歴史について研究しています。江戸時代、幕府は利根川の流路を東遷させ、江戸と水郷・太平洋を結ぶ流路を作りました。当時は移動を制限されていた庶民にとって唯一の例外が社寺参詣でした。成田参詣が江戸で流行したこともあり、庶民はさらに足を伸ばして香取神宮、鹿島神宮、息栖神社の東国三社を詣で、そこから水郷遊覧が栄えたそうです。また、松尾芭蕉の水郷吟行の記録「鹿島紀行」が発見されたことから、水郷遊覧がブームになりました。小林一茶も水郷を旅しており、現地の人々と歌のやりとりをしていました。近代になると、水郷を訪れる文人・文豪はさらに多くなりました。その中で何人かの文人を紹介されました。大町桂月「北総の十六島」では、当時の水郷の様子がわかりました。田山花袋も紀行文集「水郷めぐり」を執筆しました。蒸気船の中で出会った金満夫婦のようすが生き生きと描かれていました。兄徳富蘇峰との確執に心を病んだ徳富蘆花は、水郷地帯を訪れ、紀行文「水國の秋」を書きました。与謝野晶子は歌集「青海波」「深林の香」で水郷を詠み、野口雨情は詩集「枯草」「別後」を発表し、「船頭小唄」が大ヒットしました。講座では、スライドを用いて文人・文豪達を紹介され、作品の一部を朗読して説明されたのでよく理解することができました。当時の作家たちの交友関係や大河ドラマの新島八重と徳富蘇峰の関係の真実など、歴史のこぼれ話も聞き、「あっという間の2時間であった」「とてもわかりやすくてよかった」「もっと話を聞きたかった」「大変勉強になった」など多くの感想が寄せられました。

水郷を旅した人々や、利根川水運に関する資料等が千葉県立図書館に所蔵しています。詳しくはホームページをご覧ください。カウンターにお問い合わせください。

来年度も中央博物館と連携して秋に歴史講座を開催する予定です。



# 参考図書カフェ (14)



## 『京都地名語源辞典』

吉田金彦 糸井通浩 網本逸雄／編者

東京堂出版 2013

請求記号[29162/69(参考)]



東部図書館には、多くの参考図書があります。

参考図書は、何か特定の知識・情報について調べるための資料です。辞書や百科事典、便覧、統計書などで、小説のように通読するものではなく、言葉が五十音順に並べられていたり、索引が用意されていたりと、必要な部分を簡単に探し出せるように編集されています。そのため、短時間で簡潔な知識を得るのに便利です。

※個人貸出しはできません。

今回紹介するのは『京都地名語源辞典』です。

京都を旅すると、京都独特の地名をよく目にします。例えば、京都は神社・仏閣が多いのでそれに由来する地名が数多くあります。西寺や最勝寺などは、現在は存在しませんが、「西寺町」、「最勝寺町」という地名があることにより、そこにそれらがあつたことがうかがえます。

本書は、京都府内の大小さまざまな地名について、由来・語源を重点に歴史的意味を記述した辞典です。地名から京都の歴史に触れることができる1冊です。

## 関連一般図書

### 『京都の地名を歩く』

吉田金彦／著 京都新聞出版センター 2003

請求記号[29162/41]

歴史や地理の事情を参考に、地名の語源とその変遷を考察しています。歴史の証拠として伝わる地名を手がかりに京都の姿を探ることができます。



### 『地名で読む京の町』上・下

森谷尅久／著 PHP研究所 2003

請求記号[29162/40/1~2]

地名や寺社の由来から、京都の歴史を掘り起こし、その魅力を浮き彫りにしています。見所すべてを味わい尽くすための京都案内に適した本です。



## 吉田松陰の妹・文について

### 【 質問内容 】

平成 27 年 NHK 大河ドラマの主人公が、吉田松陰の妹・文に決まった。彼女について書かれた本はあるか。

### 【 調査経過及び結果 】

- 1 インターネット検索で下調べをします。文は、久坂玄瑞<sup>くさかげんずい</sup>の妻として久坂文<sup>くさかふみ</sup>（子）、後に楫取素彦<sup>かとりもとひこ</sup>の妻となり楫取美和<sup>かとりみわ</sup>（子）と名乗ったことがわかります。
- 2 人物事典で①の内容を確認します（裏付け）。『人物レファレンス事典』（日外アソシエーツ）に「楫取美和」の名が載っており、その出典である『幕末維新人名事典』（新人物往来社 1994）の「楫取美和」の項目には「初め文。久坂玄瑞の妻となる」と説明されています。①の内容に間違いありません。
- 3 裏付けの取れた姓名をキーワードに、県立図書館の蔵書検索や県内図書館横断検索で検索します。しかし、書名や件名に「久坂文」「楫取美和」という言葉を含む資料、つまり一冊すべて久坂文を扱った資料は見当たりません。
- 4 そこで、内容細目（目次情報）を対象に検索して、資料の一部で久坂文を取り上げた資料を探します。検索ツールは国会図書館リサーチ・ナビの「本の内容情報からさがす」〈[http://rnavi.ndl.go.jp/advanced\\_search/](http://rnavi.ndl.go.jp/advanced_search/)〉を使います。「久坂文」を検索すると、彼女を取り上げた資料が 3 冊見つかります。  
『ビジュアル幕末1000人』（世界文化社 2009）【東部所蔵】  
『ビジュアル日本史ヒロイン1000人』（世界文化社 2011）【東部所蔵】  
『物語幕末を生きた女101人』（新人物往来社 2010）【市町村図書館所蔵】
- 5 また、インターネット上でも久坂文に関する文献を閲覧できます。国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉です。ここで「久坂文」を検索すると次の 3 冊がヒットします。このうち 1 冊目は自宅などの端末からでも閲覧できますが、2・3 冊目は、国会図書館、または国会図書館が提供する「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の参加館でのみ閲覧可能です。  
『吉田松陰の母』（吉川綾子/著 泰山房 1941）「四女・久坂文子」【ネット公開】  
『日本婦人の道』（広瀬敏子/著 目黒書店 1945）「吉田松陰の妹久坂文子」【参加館公開】  
『松陰先生にゆかり深き婦人』（訂補再版 廣瀬敏子/著 武蔵野書院 1936）  
「五 久坂文子（末妹）」【参加館公開】

**担当者のコメント** 『人物レファレンス事典』は様々な辞典類から人名を採録しており、最初に確認する資料として適しています。「本の内容情報からさがす」は、国会図書館が作成した内容情報に関する各種データベースを一括検索するものです。その中でも、今回は「日本人名情報索引（人文分野）データベース」が役立ちました。これは、国会図書館所蔵の和図書・和雑誌のうち、日本人の人名を収録する辞典類の内容をデータベース化して、人名をキーワードに検索できるようにしたものです。「図書館向けデジタル化資料送信サービス」については、本号表紙のトピックスをご覧ください。

- 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。
- 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

#### 編集長の独り言

あの未曾有の東日本大震災から 3 年が経ちます。記憶を風化させないためにも、関連資料の収集や情報の提供を継続していきます。資料をお持ちの方があれば、ご連絡ください。ご協力をお願いします。

編集・発行：千葉県立東部図書館  
〒289-2521  
千葉県旭市ハの 3 4 9  
TEL0479-62-7070  
URL：http://www.library.pref.chiba.lg.jp/